

【事務所】

〒302-0026

取手市稲 107-7

TEL/FAX 050-1208-8635

メール npo_ikiru@ybb.ne.jp

http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/



24時間テレビ福祉車両贈呈



NPO法人活きるの主な活動のひとつが身体障害者の社会参加支援です。そのために福祉移送サービスを始めたものの、法人所有の車両がありませんでした。そこで、今年、毎年恒例の日本テレビ・24時間テレビの福祉車両助成に応募しました。

「24時間テレビ・愛は地球を救う」は今年で29回目です。多くの芸能人などの協力で、今年は9億4千万円ほどの募金が集まりました。そのうち、8億3千万円が福祉車両助成に充てられました。今年の応募総数は約1900件余りあり、その中で、厳正な審査とヒアリングを経て270団体の申請が選ばれました。そしてNPO法人活きるも、今までの活動が認められて贈呈されるにいたりしました。

12月1日(金)に新橋の日本テレビ本社ホールで関東エリアの贈呈式があり、理事長の染野と宮脇の2名が出席してきました。関東では46団体が招待されていました。午後2時から日テレアナウンサーの進行で、チャリティ委員会委員長の柏木さんの挨拶から始まりました。その後、各団体が活動内容を紹介され壇上に呼ばれ、委員長から目録を一人一人に読み上げて渡されました。32番目にNPO法人活きるの名前が呼ばれ、委員長から染野に目録を手渡されました。

目録の贈呈が終ると、場所を贈呈される全車種が展示されてある地下三階の駐車場に移し、取り扱い説明と引き渡し説明がありました。NPO法人活きるが応募したダイハツアトレーも展示されていて、ボディーの横を見ると「NPO法人活きる」という文字が印刷されていました。正にその車両が贈呈されるのです。今後、提供していただいた車両は地域の障害者や高齢者の移送サービスにフル稼働し、外出が困難だった方たちが寄り便利に通院やまた楽しい人生を送るお手伝いをするようになります。

最後に、この福祉車両が贈呈されたのは、NPO法人活きるの活動が公に認められたことによります。それは、ひとえに会員の方々や協力して下さる関係者のおかげであります。この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。 (宮脇)



NPO法人 活きる 移送サービス **いくべ〜**

ボランティア・ドライバー大募集!!!

TEL/FAX 050-1208-8635

〒302-0026 茨城県取手市稲 107-7(取手郵便局前)

バリアフリーマップ助成事業

NPO法人活きるでは今年度、「取手市地域まちづくり支援事業補助金」に障害者の観点から見た観光マップを作るとして申請し、運良く認められ補助金が出ることになりました。取手市の観光地をピックアップし、すでに2回の調査と11月3日には、活きる以外の人たちの協力を得て11ヶ所を回りました。

取手は古くからの街なので文化財に指定されるような建物が多く、車椅子で出かけるのも大変な所も数ヶ所に上りました。来年3月までにこの調査をまとめ上げ、マップにします。

今回は11月14日に取手の風物詩である「利根川凧揚げまつり」を見ながら、八坂神社、芸大などを調査したいと考えております。皆様のご意見が反映されるマップを目指しております。

皆様のご参加をお待ちしております。問い合わせは 染野 まで

(デンクル記)



つくばバリアフリー学習

去る11月12日、つくばバリアフリー学習会主催 『第14回カスミグループ わたしの企画応援します スポーツ遊びでバリアフリー』に NPO法人活きる からブースを出させてもらいました。

当日NPO法人活きるでは、2ヶ月に一度行っている「リハビリスポーツ」をパネルとチラシで紹介、また別の体験会場ではスポーツ吹き矢、神戸ミニヤード、指1本で操作できるラジコンカーを展示、及び来客者に遊んでもらいました。

特にスポーツ吹き矢は大人気で、持参した矢は的を外した人が多かったためか矢の先を全部、つぶしました(笑)。

他のブースも見て回りましたが、工夫次第では身近なものが我々の生活に役立つのだな、と勉強になった物もありました。

(デンクル記)



電車で GO !!



10月11日にお台場に電車に乗って行きました。お天気にも恵まれ、行くことができました。お台場では、トヨタのショールームを見学しました。それぞれ昔の車に試乗したり、新車を見たりしました。

僕もそれを見て新車がほしくなりました。

それ以外にも、車のシートの下にタイヤが格納されていて地面につくと車椅子になるというような車椅子もあり驚きました。

たくさんの方々の参加で楽しく行くことができました。

(記勝山)

ピアノの手

野口隆之

スタニスラス・ブーニンのピアノ・リサイタル
ドキドキしながら開演を待ちました
咳が出なければいいなあと思配しました
軽やかなピアノの音色
激しい感情の音色
皆の耳が、目が、ブーニンの手に集中している
心地よい気分
感情の盛り上がり
新たな勇気と
何かを洗い流すような気分
聞く人それぞれを
あの機械のように鍵盤を叩く手が
人それぞれを引き付けてしまう
俺には持たない程、スミカルに動くブーニンの手
感動しました
ピアノは手が命ということ
目の当たりに見て感じました
俺の手
じいつと見つめてしまいました
俺の命といえるもの
一体なんだろうかなあ
どんなに小さなものでもいい
ささいなものでもいい
探して、見つけて、見つけて、作り上げて
誇りに思えること、命と言えぬこと
持ちたいなあ、作りたいなあ

人にやさしい 器



～笠間焼き・ユニバーサルデザイン食器～

身体障害者の就労支援活動はNPO法人活きるの大切な本来活動のひとつであります。障害者であるがゆえに、能力があるにもかかわらず就労のチャンスが非常に少ないのが現実です。また、家族の中に重度の障害者が居てその介護のために働く環境を失う方も居ます。現行の障害者制度では、なかなかそれらの方たちに就労環境を提供することができません。また、ただ単に働く場を希望するだけでなく、自分の能力に適した職種に就きたいのは当たり前のことです。NPO法人活きるでは、何とかそのような方たちの夢が実現できるようにお手伝いをしたいと考えています。

そこで、NPO法人活きるでは、就労の場の提供するために平成18年度より準備を始めました。実際には、多くの職種を用意することは現実的ではないので、いくつかの選択肢を提供するつもりです。あまり効率的ではありませんが、ある程度希望する職種に従事することで、働く意欲にもつながるし、あきらめていた夢の実現にも近づくことが出来ると考えています。

まず、取り組んだことは、移動困難者のための外出支援(移送サービス)です。障害者にとって外出のために手段を提供することがとても大切です。そしてその事務所運営は障害があっても出来ることは多いです。しかし、行政からの協力依頼で、移動困難者が簡単に利用できるようにするために単価が非常に安く、収益にはなりません。ただ、働く場の提供にはなって就労訓練にはなっていると思います。今後、運営方法を行政側と相談しながら、収益につながるように考えていきます。

次に計画した事業は、販売事業です。注文から仕入れや在庫管理、通信販売のウェブ管理など障害があっても出来ることがいっぱいあるはずですが。同じ販売でも、やはり障害と地元産業に関わりのあるものを考えました。そこで、目をつけたのがユニバーサルデザインの食器です。理事長の友人で陶芸作家の方にお問い合わせしたところ、そのような食器の研究製作を行っている茨城県・工業技術センター窯業指導所を紹介してくれました。早速、担当者に電話をして面会を求めたところ快く応じていただきました。約束の日に、担当の方とお会いして、NPO法人活きるの活動目的や就労支援についてお話したところ、とても共感していただきました。実際に研究、製作をしているのは窯業指導所の下で笠間在住のユニバーサルデザインに興味のある作家さんや歯科医師さん、食の研究家、介護関係で構成されたKDS(KasamaDesignSpirit)という研究グループです。その場で、協力していただけることを約束していただいた上にその研究グループKDSの会員として迎えてくれることになりました。

その後、KDSの会議に出席し、会員の方たちに紹介していただき、今年度の取り扱いについて説明をしました。まず、取手市のイベントに参加し、そこでKDSの作品を展示し、お客さんにユニバーサルデザインの食器を実際に手にとっていただき、その感触を確かめてもらいます。そして、販売も行うことになりました。



取手市健康福祉まつり



平成18年10月21日(土)

毎年、取手市の主催で、市民の方たちに福祉と健康について理解を深めてもらうためにグリーンスポーツセンターで健康福祉祭りというイベントを開催しています。NPO法人活きるは昨年から参加しています。昨年は主にNPO法人活きるの活動のPRが目的だったので、屋内ブースで活動内容のパネル展示と活きるプリントで作成した卓上カレンダーとその場で写した写真を印刷したパネルカレンダーの販売をしました。今年は、PRと同時に笠間焼きのユニバーサルデザインの展示販売をしました。前日にわざわざ笠間から窯業指導所の担当の方が事務所まで食器を運んでくださいました。今回は7人の作家さんの作品を総数129点の提供をいただきました。どれも、味のある作品と同時にちょっとした工夫がなされています。そのちょっとした工夫も、実は何度も試行錯誤を重ねて出来上がったすぐれものです。

福祉祭り当日は晴天で多くの来場者が見込まれます。屋内ブースでは展示スペースがないので、同じ取手のボランティアグループのY・M・Oのご好意でY・M・Oブースの屋外テントの半分を使わせていただくことになりました。机を並べ、テーブルクロスで小奇麗にしてから、食器を並べました。テント前には窯業指導所からお借りしたパネルと食の大切さの説明パネル、NPO法人活きるのたて看板などを設置しました。

10時になると大勢のお客さんが来場してきました。テントは本会場までの通路に当たるので、通過される方たちは興味深く食器を見ていけます。他の参加者や団体の方たちも来て、結構な賑わいです。普段あまり接することのないユニバーサルデザインは、かなり注目されました。子供向けのかわいい食器もあります。また、実際に手にとって感触を味わうことが出来るので、それぞれの作品のよさがよくわかります。窯業指導所の担当の方もわざわざ笠間から様子を見に来られ、その盛況ぶりを感心されました。

結果は、イベントの規模の割りに、思った以上にたくさんのお客さんが売れました。来られているお客さんが健康や福祉に関心のある人とが多く、やはり使い心地とデザイン、品質の良さが興味をもたれた理由でしょう。とくに、ユニバーサルデザインを意識しないで買われた人が多いのですが、気が付かない使いよさが魅力だと思います。

取手市ネットワークフェア



平成18年11月18日(土)

取手市と藤代町が合併したことに伴い、藤代町で開催されていたネットワークフェアが取手市商工観光課が主催として新たにスタートしました。陸上競技場全部を使った規模の大きなものです。参加は防災関係の展示や農業関係、福祉関係、そして一般の方達のフリーマーケットです。NPO法人活きるは前述の健康福祉祭りと同様に笠間焼きのユニバーサルデザインの食器を展示販売しました。その前に開かれたKDSの会議に出席したときに、新たな作品をお預かりしてより多くの食器を見てもらうことにしました。それと同時に同じ場所で会員や協力者の方たちが提供してくれた品物のバザーもやりました。

この日も好天に恵まれ、たくさんの方が来場しました。今回も多くの方にユニバーサルデザインの食器を試していただくことが出来たと思います。一つ一つが手作りのため、同じデザインでも手に持ってみると微妙に感触が違い、最も自分にあったものを選ぶことが出来ます。また、本物の笠間焼きで食べると味も格別でしょう。食は食べ物の素材や料理だけでなく、盛り付けや食器などトータルで味わうものであると思います。尚且つ、使いやすくて食べ残しをしないような工夫をされた食器は体のご不自由な方だけでなくどんな方にも喜ばれるでしょう。

リハビリスポーツ



11月23日勤労感謝の日、あんまりよくない天気。しかし、取手市福祉交流センターのホールでは燃えていた。今回で8回目となる「活きる」リハビリスポーツ大会。前回と同じ様に2チームに分かれての競い合い。

リハビリスポーツの目的であるゲームを楽しみながら機能回復、仲間たちの親睦又情報の交換が活かされていた。スナップ写真をご覧になって参加した人たちの様子を見ていただければお分かりになる筈です。

染野理事長の「挨拶」につづき 車いすによるタイムトライアルが始まり、今回も新しいゲームが加わった。映画でもおなじみの「フラダンス」のレイのリレー。2チーム対抗でレイをリレーしてどちらが早いかのあそび。チーム対抗でおこなうと、参加するもの総てが燃える。最後の風船バレーでは、会場の外は寒いのに 参加者みんな汗をかいてしまう程の熱気でした。スタッフの方々ご苦労さまでした。次回も楽しみに待っています。(記 S-S)



GRAND PRIX

10月8日取手福祉交流センターで第2回「生きる」グランプリ行われた。天候にも恵まれてコースコンディションは良好。

今回ドライバーはベテラン揃いでレースが楽しめた。そしてコースレイアウトを変えました。また小さい子たちも参加して持参した豆粒みたいな車をあやつって楽しんでいました。みなさんのご協力で豪華賞品が揃いドライバーたちも意気揚々とレースにのぞんでいました。

その様子を写真でご覧になってあなたも是非参加して楽しいひとときを過ごしていただきたいと思っています。

次回は来年春から年4回開催を予定しています。(記S-S)



第2回生きるコンサート

遅れていた紅葉が、その日の冷たい雨で急に進んだような11月19日(日)、守谷の国際交流研修センターで「生きる」のコンサートが開かれました。最初はきんちさんのピアノの弾き語りでした。オリジナルの風の歌は、ちょうど窓から見える林の間を吹き抜けていくようでした。他には唱歌なども伴奏してくださり、どこかの歌声喫茶のように和んだムードになりました。

二番目の人見麻妃子さんは、今年の春、下妻で中学の先生から歌手に転身したという方で、彼女の生き方と元気な歌声は、今のストレスの多い中学生たちを勇気づけてくれるだろうと思いました。最後の古江かをりさんの「アルパ」は軽快で力強い曲で始まり、ハープは優雅な楽器だという先入観をみごとに崩してくれました。女らしい古江さんが、とても心地よさそうに演奏される姿に聞いているこちらもうっとりしてしまいました。また来年もこんな温もりのあるコンサートを聞きに来たいと思いました。

(記 A. K)



移送サービスの現状とお願い

NPO法人活きるでは今年4月より取手市内の移動困難な障害者や高齢者の外出支援のために移送サービスを展開してきました。

現在、利用登録は100人を超え、利用件数も月に100件以上になっています。それに従事するボランティアドライバーは現在14人の登録がありそれらの方たちがフル稼働で依頼をこなしています。通院だけでなく楽しみのための移送もやっているために多くの利用者さんに喜ばれています。

利用を希望される方は、もっと多く居るはずですが、ボランティアドライバーが不足しているために、市民の方々にご迷惑をおかけしています。ぜひ、運転ボランティアにご協力をお願いしたいと思います。先に書かれていたように24時間テレビから福祉車両を提供していただき、法人所有の車両で移送を行うこともできるようになりました。

また、この移送サービスの運営は障害者の就労支援、訓練も兼ねております。しかし、収益を上げるには至らず、市の援助も無いため運営費が大変不足しています。従事者に給料も支払えない状態ですが現在は気持ちでがんばっています。運営持続のためにも市民の方々のご協力、ご寄付が必要です。

ご寄付をしていただく際は、直接「活きる」宛、または社会福祉協議会の善意銀行へNPO法人活きる指名でお願いします。どうぞ、ご協力よろしくお願ひいたします。

お問い合わせ担当：活きる移送サービス 宮脇貞夫

デンクル 日記

9月に今年2回目となる北海道へ行って来た。今回は10日間という久しぶりの長期間になったが、いつものとおり北海道にいる友人に頼った。

最初は室蘭に住む友人。大好きなバイクのミーティングが富良野市で毎年行われており、そこで知り合った友人。彼が学生時代からのお付き合い。1年に一度か二度位しか会わないが、介護はバッチリ。私と一緒にいった友人と昨年結婚。いいプレゼントを送った。

この友人夫婦と5日間過ごした後は東京から遊びに来ていた友人夫婦にバトンタッチ。

この友人も軽井沢で行われていたバイクミーティングで知り合った。バイクミーティングへ参加したくて「障害を持った友人が北海道に行きたがっているの・・・。」嘘を付いて休暇を取った逸話の持ち主。毎年、美瑛の民宿で3日間を過ごすのが定石。彼も昨年6月に50を目前にして初の結婚。

最後は以前、我孫子に住んでいて北海道に引っ越して福祉関係の施設に勤めている友人。彼が独身の頃からの飲み友達だが、年末年始には彼の住む北海道には出かけていた。

最近3人の子供たちが大きくなり、泊まるとなるとちょっと大変になってきている。

1年に一度くらいは向こうに行って会うようにしている。

1年に一度くらいしか会えない友人達だが、前の2組の友人は趣味を通じて信頼しあった中。こういう友人をたくさん作っておくことが大切であり、私の財産だな、と最近つくづく思うようになった。大事にしたい。

デンクル記)

またまた10月から制度が変わり、ますます介護保険制度に
変身してまいりました。
最近「こんな中途半端な制度
なら早く介護保険と一緒にすれ
ばいいのに」との声が聞こえて
きます。このことは利用者から
すれば介護保険の方がサービス
の種類がはるかに多いからだ
と思います。しかしながら、利
用者負担はどうでしょう？自立
支援法は毎月の利用者負担は上
限があり、上限を超えたサービ
スを利用してそれ以上の負担
はありません。

介護保険はというと、毎月の
限度額を超えると10割負担と
なります。例えば介護保険で試
算すると要介護4の方が月に使
えるサービスは306,000
円（自己負担30,600円）、
仮に月に50万円のサービスを
利用すると50万円×306,
000円÷30,600円＝112
となり、6000円（自己負担分）
となり、これは、あくまで
も勝手な試算ですが、おこり
ることかもしれません。

この制度を作っている国の役
人も「人」です。「人」はいつ障
害を持つかしれません。自分
がそうになった時にいいや、思
うので、いった方がいいと思う
のですが・・・？

ありがとう



会員の長島さんから、バザーのため
に、手作りの香り袋と香りスティックを提
供してくださいました。いい香りでおしゃ
れなものです。

また、奈良の mizumama さんからは、
同じく手作りコースターが提供されまし
た。mizumama さんは筋無力症を患って
おり、車イス生活で在宅酸素療法を受け
ています。そんな中、趣味のパッチワー
クでこのコースターを作ってください提
供してもらいました。ちゃんと、「npo ik
iru」のタグもついています。

活動会員・賛助会員を募集しています
一緒にNPO 活きの活動に参加してみませんか
皆様のご参加をお待ちしています。

活動会員	個人・年会費	2,000円
	団体・年会費	3,000円
賛助会員	個人・年会費	1口1,000円 1口以上
	団体・年会費	1口2,000円 1口以上
(活動・賛助会員の総会議決権はありません)		
銀行口座	関東つくば銀行 新取手出張所	
	普通預金 NO1030441	
郵便振込み	10650-41405021	
どちらも口座名義は「特定非営利活動法人活きる」		



NPO 法人活きる 窓 開けて
2006年12月10日発行
発行所 NPO 法人 活きる
発行者 染野和成
編集者 宮脇・染野・鈴木・河口・石浜
連絡先 T/F 050-1208-8635
E-mail npo_ikiru@ybb.ne.jp
URL <http://www7a.biglobe.ne.jp/~npoikiru/>

編集後記
掲載する記事が多く、メ切り日から編集、印刷わ
ずか、6日で発行と慌ただしかったが、読んで頂い
て、活動の様子が手にとるようにわかる、基本方針
は貫いたと思っています。(S-S)